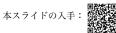
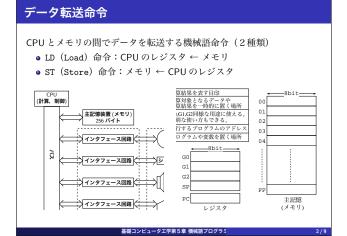
### 基礎コンピュータ工学 第5章 機械語プログラミング (パート2:転送命令)

https://github.com/tctsigemura/TecTextBook



基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ



# LD (Load) 命令 (ニーモニックと命令フォーマット)

メモリ (EA) から CPU のレジスタ (GR) ヘデータを転送 (コピー) する.

ニーモニック: LD GR,EA

命令フォーマット: 2バイトの長さを持つ.

第1/	ベイト	郷のぶくし	
OP	GR XR	第2バイト	
00012	GR XR	aaaa aaaa	

フィールド: OP, GR, XR, A

GR フィールドの意味と値: GR の 2 ビットで CPU レジスタを指定する.

GR	意味
002	G0
$01_{2}$	G1
$10_{2}$	G2
$11_{2}$	SP

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

**ニーモニック**: LD G1,03H

**命令フォーマット**: G1 と 03H を反映する.

LD (Load) 命令(具体的な命令の例)

第1	バイト	Mr O . N . L 1	
OP	GR XR	第2バイト	
00012	012 002	0000 00112	

メモリに格納した状態: HALT 命令やデータも格納している.

メモリの3番地からから G1 レジスタヘデータを転送 (コピー) する.

番地 命令  $00_{16}$   $\fbox{14}_{16}$  LD G1,03H  $\begin{array}{c|cccc}
01_{16} & 03_{16} \\
02_{16} & FF_{16} & \text{HALT}
\end{array}$ 03<sub>16</sub> 12<sub>16</sub> 何かデータ

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

#### LD (Load) 命令(少し長い例)

プログラムの例: データを GO, G1 にロードする.

	番地	機械語	ラベル	ニーモニック	
ı	0016	$10_{16} \ 05_{16}$		LD	G0,05H
	$02_{16}$	14 <sub>16</sub> 06 <sub>16</sub>		LD	G1,06H
	$04_{16}$	FF <sub>16</sub>		HALT	

メモリに格納した状態: 何かデータも準備する必要がある.

番地 機械語 意味  $00_{16}$   $10_{16}$  LD GO,05H  $05_{16}$  $01_{16}$ 14<sub>16</sub> 06<sub>16</sub> LD G1,06H  $02_{16}$  $03_{16}$ FF<sub>16</sub>
12<sub>16</sub>  $04_{16}$ HALT データ!!  $05_{16}$ 06<sub>16</sub> 34<sub>16</sub> データ!!

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

#### LD (Load) 命令 (フローチャートの描き方)

LD 命令のフローチャート: [と] を忘れないように!



LD 命令のフローチャート例: START と END を追加

START  $G0 \leftarrow [05H]$  $G1 \leftarrow [06H]$ END

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

## ST (Store) 命令 (ニーモニックと命令フォーマット)

CPU のレジスタからメモリヘデータを転送 (コピー) する. **ニーモニック**: ST GR,EA

命令フォーマット: 2バイトの長さを持つ.

第17	ベイト	Mr O . N . L 1
OP	GR XR	第2バイト
$0010_2$	GR XR	aaaa aaaa

ST 命令のフローチャート: [と] を忘れないように!



基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

## ST (Store) 命令 (プログラム例)

プログラムの例: 05H 番地のデータを 06H 番地にコピーする.

番地	機械語	ラベル	ニーモニック	
00	10 05		LD	G0,05H
02	20 06		ST	G0,06H
04	FF		HALT	

番地と機械語はいつも 16 進数で書く (小さく 16 と書く必要なし).

**フローチャート**: 上のプログラムのフローチャートを描いてみる.

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ

#### 演習

次の手順を守って演習を行う.

- 1. フローチャートを描いて考えをまとめる.
- 2. ニーモニック (オペレーション, オペランド) に変換する.
- 3. 番地 (アドレス) を決める.
- 4. 機械語を決める.
- 5. TeC に打ち込み実行して結果を確認する.



基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミ 9/9